

北陵 タイムズ

北諫早中学校だより No.10
令和5年7月10日
文責 校長 小川 太洋
<http://www.kitaisahaya@isahaya-snet.ed.jp>

感動と友情が芽生える
楽しい学校

光輝く星

増山 紗綾

「少年の主張」諫早市大会
発表原稿 全文

皆さんには、大切な、大好きな家族はいますか。お母さん、お父さん、兄弟、姉妹。何万、何億という人がいる世界中での、血や、心のつながりのある人達。

私の家は、三人家族です。母と、父と、そして、私。幼い頃の私はよく「兄弟ほしかったなあ。」と母と父に言っていました。そのときは「そうだね」「ごめんね」という反応で、私もこれ以上は申し訳ないと思い、言わないようにしました。それからしばらく経った今年の春、母に言われました。本当は兄か姉がいたかもしれないなかったと。その子は頑張っ、それでも母のお腹の中で亡くなってしまいました。「星」となったのです。

このとき母と一緒に、「命を大切にすること」そして「自分を大切にすること」を約束しました。子供を産める年まで成長した私に、自分が経験した辛い思いをしてほしくないと思ったようです。母は体が弱く、子供を産むのであれば一人が限界だったのです。たくさん悲しい思いをし、それでも諦めず、必死に私を産んでくれたことを知り、改めて感謝の気持ちが生まれました。そして、私達が今こうして生きていることも奇跡なのかもしれない、と感じるようになりました。

私は、母の話を聞いてから、元気に生まれられない子供や、生まれても長く生きられない子供がいることについて、改めて考えました。それから、子供の死因や、亡くなる子の人数について調べました。厚生労働省によると、子供の死因の5割は病死、2割は事故、3割はその他となっていました。「その他」の原因を詳しく見てみると、「虐待」「中絶」などの言葉が出てきました。生きたくても生きられなかった子供がいる。その中に、この衝撃的な原因が含まれているのです。

虐待の相談件数は、令和3年度、過去最多の20万7600件だったそうです。そして、平成15年から令和3年度までの期間、毎年40人ほどの子供が虐待で亡くなっているとあります。日本小児科学会のデータでは、虐待での死亡者は年間350人という数字も出ているのです。発見されていないだけで、もっとたくさんの子供が、虐待

の被害にあっているかもしれないのです。

また、人工妊娠中絶について調べると、令和2年に「14万5340件」というデータがありました。未来のある子供達、望まれて生まれてきた子供達であるべきなのに、こんなにたくさんの子供が虐待や中絶で亡くなっています。虐待や中絶には「親にかかる過度なストレス」「経済の遅れ」などの原因も指摘されており、相談できる環境や周囲の支えが必要です。これは、社会全体で考えなければならない問題なのです。

皆さんは今、幸せですか。家族のことは好きですか。

今日も、どこかでたくさんの子供達が劣悪な環境の中、ひどい扱いを受けているかもしれないのです。幸せが、命が、こうしている今も失われているのです。

私にもいつか、生涯を共にする相手が現れ、子供が生まれるのでしょうか。私は生まれてくる子供を、大切に、幸せに育てたいと思っています。

生きられたはずなのに、亡くなってしまう子供をこれ以上増やしてはいけません。私も星になった兄弟の分も幸せに生きて、母と父のもとに生まれてきたことの感謝を伝え続けていこうと決めました。

命の星として、光り輝き続けるのです。

日常生活で感じたことなどを中学生が発表する「少年の主張」諫早市大会が7月4日開催され、本校から増山紗綾さん（3年）が出場し、入賞しました。

増山さんは命の尊さをテーマに語り、望まれて生まれてきた命を大切にすること、さらには両親への感謝の気持ちを力強く伝えた素晴らしい発表でした。これまでの準備と練習、大変お疲れ様でした。



凛とした態度で発表する増山さん